



【韓国】 総合指数は週間で0.3%安と反落、今週は3000ポイント付近で値固めか

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.3%安と反落した。週明け18日は前週末の米株高を受けて買いが先行したものの、午前中に発表された21年7-9月期の中国のGDP成長率が予想を下回ったことが嫌気され、下げに転じた。19日は米ハイテク株高や韓国の新型コロナ新規感染者数の減少を受けて買いが優勢となり、9月30日以来の高値を付けた。サムスン電子などハイテク大手が上昇を主導。北朝鮮がミサイルを発射したが、市場の反応は限られた。20-22日は利益確定売りが出て、3日続落。機関投資家の売りが相場を押し下げた。もっとも国内のコロナの感染収束や景気回復への期待が根強く、下値は堅かった。今週は3000ポイント付近で値固めか。国内の7-9月期GDPなどの発表を29日に控え、様子見ムードの広がりも見込まれる。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は0.7%安と6週ぶり反落、今週も原油相場をにらんだ展開か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で0.7%安と6週ぶりに反落。原油、鉄鋼高を受けて指数は10年2カ月ぶりに1900ドルを回復したが、原油相場の反落や海外株安を受けて調整した。週明け18日は中国のGDP成長率が予想から下振れたことで下落し、19-20日は原油や鉄鋼の価格上昇を受けて続伸。ただ、21日は原油相場の反落や海外株安を背景に前日比1.9%安。19日に10年2カ月ぶりに終値で1900ドルを超えたが、この水準を下回って週の取引を終えた。個別では産金のポリュスが6.7%高、鉄鋼のノボリペツク製鉄所が6.6%高、セヴェルスターリが3.4%高となった一方、資源のルサルが7.0%、エネルギーのノバテクが3.6%、スルグトネフテガスが3.2%、ガスプロムが2.6%下落した。今週も原油相場や海外株をにらんだ展開か。

▼指数チャート



【ベトナム】 ベトナム指数は0.2%安と3週ぶり反落、今週は強弱感対立でもみ合

いか

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で0.2%安と3週ぶりに反落。節目の1400ポイントが意識されたほか、海外勢の売り越しも重しとなった。週明け18日は先高観を背景に前週末比0.2%高と続伸したが、心理的節目の1400ポイント付近では上値の重い展開。指数は20日も一時的に1400ポイントを上回ったが、21日は海外勢の売り越しで0.6%安の1384.77ポイントで終了。22日は国内勢の押し目買いで反発したが、戻りは限定的だった。個別では不動産のノー・バー・ランド・インベストメント・グループが1.3%上昇した半面、飲料のサイゴンビール・アルコール飲料が3.9%安、金融のベトインバンクが3.3%安と下落し、鉄鋼のホア・ファット・グループが1.0%安、食品加工のマサン・グループが0.6%安となった。今週は強弱感対立でもみ合いか。

▼指数チャート



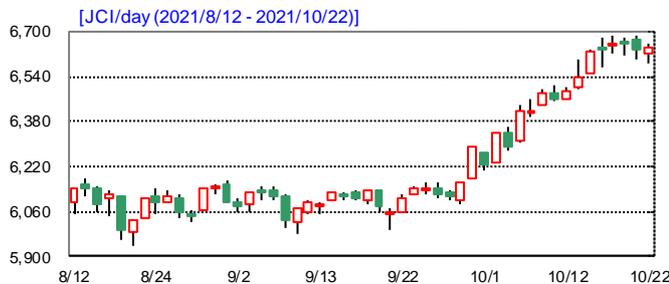


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.2%高、中国恒大集団のデフォルト回避報道で反発

ジャカルタ総合指数は4日間の取引で0.2%高と6週続伸。狭いレンジでの値動きが続いた。週初の18日は、終値で18年2月以来の高値を更新した前週末からさらに上値を広げ、5営業日続伸。ただ、19日は中央銀行の金融政策決定会合で国内経済は改善が続いているとの見解が示されたものの、指数は小幅に反落した。祝日を挟んだ21日は、中国政府の石炭価格介入に対する警戒感から一般炭の先物価格が急落した影響で、関連銘柄が売られて続落したが、22日は中国恒大集団のデフォルトが回避されるとの報道が好感されて反発している。今週は国内の重要イベントが少なく、外部要因が指数を左右しそうだ。

▼指数チャート

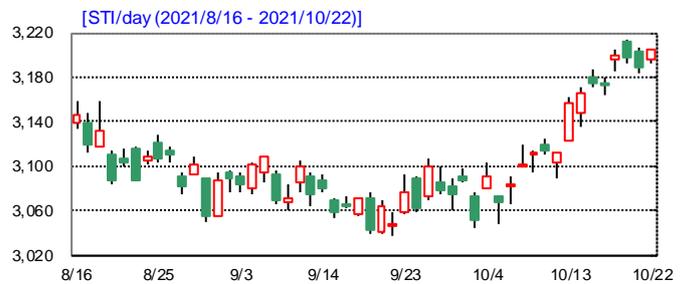


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 1.0%高、週末に終値で 3200 ポイント台に到達

ストレーツタイムズ指数は週間で1.0%高と3週続伸。週末に終値で2カ月半ぶりに3200ポイント台に到達した。週初の18日は、9月の非石油地場輸出が前年同月比12.3%増と市場予想から上振れしたものの効果は薄く、指数は前営業日からほぼ横ばい。19日は中国株の上昇に連動して買い優勢の展開となったが、20日に小幅反落すると、21日は中国の不動産業界に対する先行き不透明感が投資家心理を冷やし続落した。ただ、22日は中国恒大集団のデフォルト懸念が後退したことを受けて引け際に買われ、反発して引けている。今週は25日の9月のCPIに続き、26日には同月の鉱工業生産が発表される予定。

▼指数チャート



【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.3%高、中央銀行の住宅ローン支援策発表で不動産株が上昇

SET 指数は4日間の取引で0.3%高と反発。おおむね堅調に推移した。週初の18日は、中国の7-9月期のGDP成長率が市場予想から下振れたものの影響は軽微で、指数は3営業日ぶりに反発。19日はエネルギー株と銀行株に利益確定売りが出て反落したが、20日は7-9月期の決算発表を翌日に控えたサイアム商業銀行を含む大型株が指数上昇をけん引した。21日は中央銀行が住宅ローンの新支援策を発表した効果で不動産株が買われ、続伸して連休前の取引を終えている。今週は27日に9月の鉱工業生産が発表される予定。22日に発表された9月の貿易収支（通関ベース）が市場予想を上回ったことは好材料。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.6%安、今週は 29 日に来年度政府予算案発表

クアラルンプール総合指数は4日間の取引で0.6%安と3週ぶりに反落。週後半の下落が痛手だった。週初の18日は、原油価格の上昇に加え、新型コロナ対策として導入されている行動制限が首都圏などで最も緩い第4段階に移行した効果で指数は続伸。祝日を挟んだ20日も小幅に上値を広げ、終値で約6カ月ぶりの高値を更新した。一方、21日は利益確定売りのほか、米国が強制労働の疑いでゴム手袋メーカーのスーパーマックスの製品輸入を差し止めたことも嫌気されて4日ぶりに反落。22日は原油価格の下落などが響き続落した。今週は28日に9月の貿易統計、29日に来年度の政府予算案が発表される予定。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZHが信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZHはその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZHで入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZHは、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZHは一切その責任を負いません。

DZHは、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZHおよびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容についてDZHは一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。